

医薬品による副作用：アナフィラキシーショック

58

特徴	一度発症すると病態は急速に悪化する（2時間以内）
原因	即時型アレルギー
症状	顔や上半身の紅潮、蕁麻疹、顔面蒼白、手足の冷感
経過	チアノーゼ、呼吸困難
高リスクの人	過去にその医薬品で蕁麻疹などのアレルギーを起こしたことのある人

【参考】蜂刺されによるアナフィラキシーショック

59

- 一度蜂に刺されたことがある人は、その毒に対する抗体が作られている可能性がある
- 二度目に蜂にさされた時に即時型のアレルギーが起こる
- ショックが起こると血管が広がる
 - 血圧が下がる
 - 正常に血液を送れなくなる
- 緊急的な治療として「エピペン」注が使われる
 - アドレナリンで血管を収縮し心機能を高める



医薬品による副作用：重篤な皮膚粘膜障害

60

	皮膚粘膜眼症候群	中毒性表皮壊死融解症
別名	スティーブンス・ジョンソン症候群	ライエル症候群
略名	SJS	TEN
特徴	高熱と共に目や口などの粘膜の炎症が起こる。両眼に現れる急性結膜炎は皮膚や粘膜の変化とほぼ同時期または半日～1日程度先行して生じる	広範囲の皮膚の発赤、皮膚の剥離、口唇の発赤、びらん
原因物質	特定困難	
症状	38度以上の高熱 多形紅斑様の発疹、水疱・びらん	
皮膚症状の面積	10%未満	10%以上
経過	多臓器不全、目や呼吸器の障害が残ることもある	
発生頻度	人口100万人あたり年間1-6人	人口100万人あたり年間0.4-1.2人
その他	原因薬物の使用開始後2週間以内に発症することが多いが、1か月以上経過後に起こることもある	

医薬品による副作用：偽アルドステロン症

61

症状名の由来	副腎皮質からのアルドステロン分泌が増加していないにも関わらず、あたかも分泌が増加しているような症状が出ることから。
特徴	体内に塩分（ナトリウム）と水が貯留し、カリウムが失われる。
原因物質	カンゾウ、グリチルリチン酸
症状	むくみ（浮腫）、手足の脱力、血圧上昇
高リスクな人	低身長、低体重など体表面積が小さい者や高齢者

【参考】接頭辞：glu-について

62

glu=glykys（ギリシャ語で「甘い」の意）

グル又はグリと付いたら、「糖」に関わる物質だと覚えよう。

- グルコース（ブドウ糖）
 - グリコーゲン（肝での糖貯蔵時）
 - グリチルリチン酸（甘草）
 - グルカゴン（血糖値上昇ホルモン）
 - グリセリン（浣腸、保湿剤）
- ※ マルツエキス（麦芽糖）：乳児の便秘薬